
続・続・一条財閥再建会議

STORM

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

続・続・一条財閥再建会議

【Nコード】

N7050F

【作者名】

STORM

【あらすじ】

駿たちの時代から約40年後。鍊磨の一条財閥は衰退し、椎名財閥に吸収されかかっていた。そんな中、鍊磨の孫、一条命が一族と再建するため、三度目の会議を行う。またまた前回の続編です。

(前書き)

さりげなくレギュラー組が確立してきてます。

一条命は第三回一条財閥再建会議を計画していた。

だが、計画実行日は前回最後まで残っていた六条と九条、それと比較的話の分かる二条しか来れない。

一応七条は来れたが、前回の予告通り、参加拒否した。

「この際仕方がない、少しでも案を集めるんだ！」

なんか本気だったりする。

そして会議の日。

「おはようございます」

「おはようございます、命さん」

「お、よし、予定の人数は揃ったな！」

命の大きな声にかき消される六条だった。

だが、最初の方に「お」だけでも発言できたことは大した進歩である。

「前は意味わからん雑談で終わってしまったが、今回はマジ話にするぞ」

「それより命さん、今日の昼飯は何すか？オレ、腹へっちゃってさ」

「あらあら、命さんの家計は昼食を出すだけの余裕はありませんよ」

「うるせえ、朝から呼んでるから昼飯くらいあるわ！」

「今日はカツ丼が食いたい気分ですね」

「それでは命さん、私にはフレンチを」

「二条はまだしも九条！お前調子に乗るんじゃないやねえよ！？」

「あ、カツ丼の出前お願いします」

「出前取るなよ！？」

「あらあら、それなら私はピザでも注文しようかしら」

「するなああああああああああ！！！！」

「大丈夫ですわよ？命さん持ちですから」

「何が大丈夫なんだよ！？」

「あ、じゃあカツ丼もよろしくお願いしますわ」

「ふざけんな、しかも「じゃあカツ丼も」ってなんだよ！？」

早速どうでもいい雑談を展開した一条命ら三名であった。

「お前ら、飯は食っただろ。だったらオレに協力しやがれ」

命の呼びかけに案外素直に二条が答えた。

「普通に株やつたら？」

「株？」

「そう、株」

「株って・・・株式の株？」

「そう、その株」

「株で金稼げと？」

「いいや、株で乗っ取ればいいじゃん。椎名グループを」

「・・・お前、椎名グループの株、いくらするか分かってんのか？」

「分かってるよ、なんてったってうちの資産を全て費やしても10

%しか買えないしね」

「輪廻さん。あなた、命さんの資産を理解していますの？」

二条は数秒上を向いて考えていた。
そして、何かに気がついたように手を叩いた。

「・・・あ、ごめん命さん。マジで」

どうやら命の資産の少なさに気がついたらしい。

「ふざけんな。そして笑うな」

命は涙目になってたりする。

「いやあ、本当に申し訳ないっす」

命はへらへらと笑う二条に若干怒りを覚えた。

「お前らとは資産の額が5桁以上違うからな」

「落ちこぼれた一条家とは違いますからね」

平然な顔で酷いことを言う九条。

「二条家は一応結構良い家柄だから」

「そうでしたね。輪廻さんは直系ではありませんが、一応椎名家に許婚がいますしね」

「そう言う友音さんも椎名家に許婚がいるじゃないっすか。確か椎名琉那の・・・」

「自慢話なら他でしてくれ」

命は正直なところ、精神的に限界を感じてたりする。
命には許婚がないのだ。

「大丈夫ですよ、命さん。あなたにもいずれ愛してくれる女性が現れるはずですよ。それがたとえブスだったりデブだったり金の亡者だったり鬼嫁だったりしても・・・」

「ふざけんな、オレはかわいい幼女以外興味はねえ！」

「・・・ロリコン」

「・・・生理的に嫌悪を感じますわ」

命はロリコンだった。

結構普通にロリコンだった。

大々的に自らがロリコンと言うことを証明した。

「別にロリコンと言うことは否定しないけど・・・捕まらないようにした方がいいですよ」

「私は命さんを見損ないました。あなたはいつも小さな女の子を部屋に呼んで恥ずかしいことを・・・」

「んなことしてねえよ!？」

「禁断の小さな果実に手を染めるのですね・・・あなたは」

「うっわ、命さんそんなことしてんですか。変態ですね。犯罪者ですな」

「してねえつつつてんだろ!？」

「帰りましょ、友音さん。こんな奴と一緒にいたら変態がうつりますよ!」

「そうですね。私も純潔を奪われないうちにお暇します」

二人は速攻で部屋を出た。

「あ、命さん!カツ井御馳走様でした!」

「ロリコンに礼儀など必要ありませんよ」

「九条!今お前は全世界のロリコンを敵に回したぞ!？」

「早くしないと私も命さんに襲われてしまいますわ!急いで、輪廻さん!」

「了解です!」

「お前ら!それに九条!オレは小学生以下しか興味ねえからお前を襲ったりしねえよ!」

その後、この話を近所のおばさんに聞かれていたことにより、幼女

は命をみるなり逃げるようになってたりする。

命は近所のおばさんから冷たい目で見られ、迂闊に外に出たら精神的に限界に達してしまうようになってしまった。

無駄に罪悪感を覚えた命はこのあと引越すことを決意する。

「そんな未来はどうでもいいわ！てか誰考えたんだよ、このバッドエンドストーリー!?!」

そんなのは作者に決まっていると、作者は言います。

「あの、命さん？昼飯俺だけ食ってないんですけど・・・それに俺も許婚いませんよ？」

「ああ？六条いたのか？まあいい。お開きだ、早く帰れ」

六条は、気づいてもらえただけでも大きな進歩であった。

(後書き)

やっぱり花は欲しいですね、花は。
レギュラーのひとりにはね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7050f/>

続・続・一条財閥再建会議

2010年11月21日14時51分発行